

3月の 園便り

フレデリック



令和4年 新潟青陵幼稚園 園長 加藤由美子

今学期も残り少なくなりました、皆様にはいつも温かいお心と励ましのお言葉をたくさんいただき、支えていただきました、本当にありがとうございました。

先日のこと、玄関の門を開けるボタンは高い位置についていますが、そのボタンを押して、門を開けて、笑っては玄関に戻っていた太郎君、そしてそれを見ながら一緒にキャハキャハ笑っていた次郎君と三郎君、門から出ようとはしていなかったのも、ちょっと悪戯してみたかったのでしょうか。でも、危険につながるのも、まじめな顔をして、3人に職員室に来てもらって話を始めました。

加藤「これは絶対にやってはいけないことです！！危ないことです！」

太郎君「うん・・・」

三郎君「オレはしてない」

加藤「あのね、外は車が通るし、あぶ・・・」

次郎君「あのさ、園長先生ってさ、作るの上手だね」

加藤「ん・・・ありがとう・・・あのね、外はね、車にひかれるかもしれな・・・」

次郎君「あのさ、折り紙もさ、何でも作れるよね、じょうずだよな～」

加藤（・・・笑うのを我慢していましたが、とうとう我慢できずアハハハ・・・）

次郎君は、太郎君を助けたくて、私がそれ以上怒らないようにしたかったようです。だから、私の気持ちをほぐそうと、ほめておだてて、何とか話をそらそうと一生懸命だったのです。次郎君の心遣いに、これ以上言わなくてもいいな、この子たちは分かっているからと思いました。ボタンを押して門を開けてみたかった太郎君、そしてそれを一緒に笑って騒いでいた次郎君と三郎君、三人とも分かっていたのです、だから、三人とも門から出てはいかなかった・・・もちろん何か起こったら大変だということは重々承知していますが、こんな風に悪戯して叱られて、しかも、友だちが助けようとしてくれた、こういう経験は、むしろ今後、正しく生きようとする力になっていくのではないかと思います。私は「愛され、理解されて育った子どもは、まっすぐに伸びていく」この言葉を大切にしています。子どもたちに「あなたの気持ち分かった」と言い「今度はこうできるといいね」と次へのヒントとなる言葉を伝えていけば、そのヒントの言葉を守って生きていこうとする子どもたちなのです。愛情を持って接したら、子どもたちは必ず上を目指して伸びていきます。愛情を自分の身を守る強固な鎧として身につけ、子どもたちはやがて社会へ出ていきます。愛情という鎧ほど強く子どもを支えるものはないと思っています。自己肯定感を持った子どもは、確実に“自分の夢を叶えて生きていく大人”になるのです。

3月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	火	○	2:30		
2	水	○	2:30		
3	木	○	2:30		
4	金	○	2:30		
5	土				
6	日	/	/		
7	月	○	2:30		
8	火	○	2:30		
9	水	×	11:30	誕生会です、3月生まれさんの保護者の方、一緒にお祝いしましょう	
10	木	○	2:30		
11	金	○	2:30		
12	土			青ばら保護者の皆様主催、卒園を祝う会を行います。	
13	日	/	/		
14	月	○	2:30		
15	火	○	2:30		
16	水	○	2:30		
17	木	○	2:30	青ばらさんおめでとうの会	
18	金	×	11:30	終業式	
19	土			第54回修了式を行います。もも組さん、赤ばらさん、白ばらさんはお休みです。	
20	日	/	/		
21	月		/	春分の日	
22	火		/	2号さん・星の子さんは通常通りです。	
23	水		/	〃	
24	木		/	〃	
25	金		/	〃	
26	土		/		
27	日	/	/		
28	月		/	〃	
29	火		/	〃	
30	水		/	〃	
31	木		/	〃	